

1.環境プラント事業

(関連するSDGs)



一般廃棄物処理プラント事業

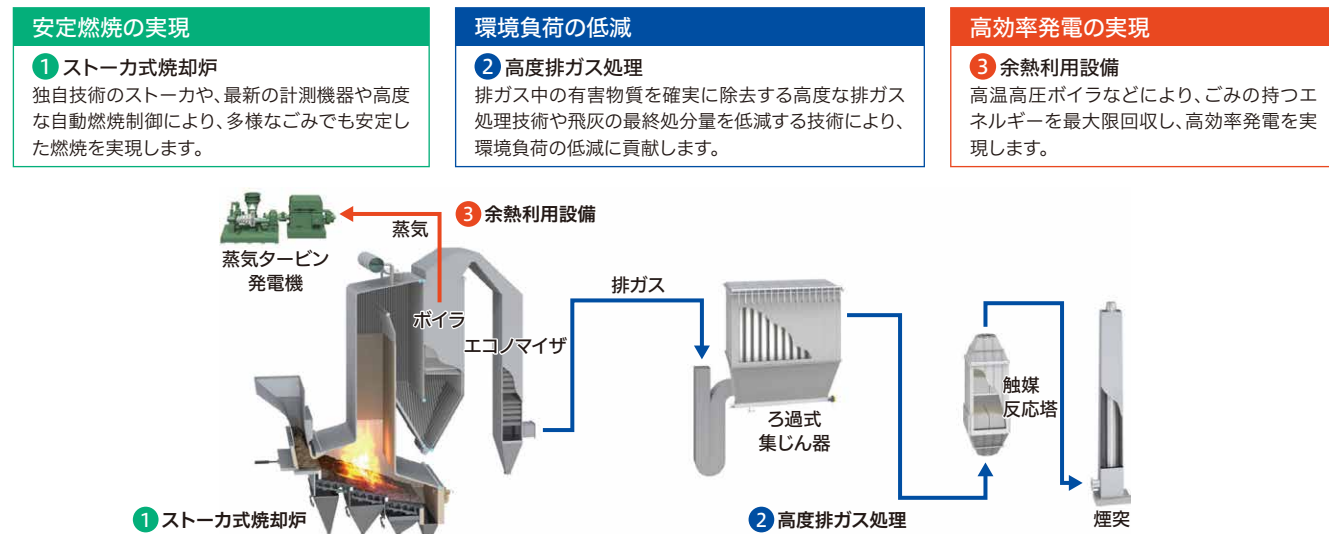
当社は、自社技術によるごみ焼却技術を開発し、1963年に「日本初の全連続機械式ごみ焼却プラント」を納入して以来、国内で360件を超える一般廃棄物処理プラントを建設してきました。その後も数々の新技術を導入し、「国内No.1の納入実績」を積み重ね、現在においても技術研鑽に努め、最高水準へ挑戦し続けています。

当社は、この先も業界のリーディングカンパニーとして、豊富な実績に基づく幅広い製品ラインナップとサービスで、一般廃棄物処理プラントの建設からアフターサービスまで、一貫した取り組みを展開し、地域の安定したごみ処理に貢献しています。

プラント建設

●ストーカ式焼却炉

ストーカ式焼却炉は、国内で最も普及しているごみ処理方式であり、当社の主力商品となります。現在、全国各地の多くの自治体における焼却炉がこの処理方式であり、当社は、豊富な実績に基づいた高度な技術・ノウハウにより、お客様のニーズにあわせて安心・安全・安定かつ高効率なごみ処理を実現しています。



ごみの焼却 | 安定燃焼

焼却炉内に供給されたごみは、ストーカ(階段状の燃焼装置)の上を移動しながら、850℃以上の高温で安定して焼却します。

排ガス処理 | 確実な除去

ボイラ・エコノマイザを出た排ガスは、ろ過式集じん器・触媒反応塔で排ガス中の有害物質を確実に除去し、煙突から排出します。

余熱利用 | ごみエネルギーの有効活用

ごみ焼却で発生する熱を、ボイラおよびエコノマイザで蒸気として回収し、蒸気タービンで発電を行います。回収した蒸気は、施設内や近隣施設の給湯・冷暖房などの熱源としても利用します。

●メタンガス化施設

近年、環境省は、一般廃棄物のメタンガス化施設の導入を推進しています。当社は、最大限のエネルギーをごみから回収して高効率発電を実現する「都市ごみのメタン発酵と焼却によるコンバインドシステム」により、焼却処理の減量および環境負荷のさらなる低減に寄与しています。(平成26年度 新エネ大賞「新エネルギー財団会長賞」受賞技術)

メンテナンス

一般廃棄物処理プラントの安定稼働を実現するためには、毎年のメンテナンスが必要不可欠です。プラントにはさまざまなノウハウが凝縮されていることに加え、ごみの性状によって設備の劣化状況が変わるため、メンテナンスには高い技術力と経験値が求められます。当社は、蓄積された豊富なノウハウによって長期補修計画の策定や綿密な現地調査を行い、最適なタイミングでメンテナンスを実施することで、安定したごみ処理とプラントの長期稼働に貢献しています。



ボイラ水管の取替え

基幹的設備の改良

社会インフラである一般廃棄物処理プラントは、国内全体の約7割のプラント*が稼働後15年以上を経過しており、老朽化によるプラントの更新・延命化のニーズが高まっています。当社は、ボイラメーカー・環境プラントメーカーとして培ってきた高度な熱利用技術や省エネルギー技術をもとに、付加価値の高い基幹的設備改良工事を実施し、プラントの延命化とCO₂排出量の削減に貢献しています。 ※ 環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等について」平成30年度調査結果より



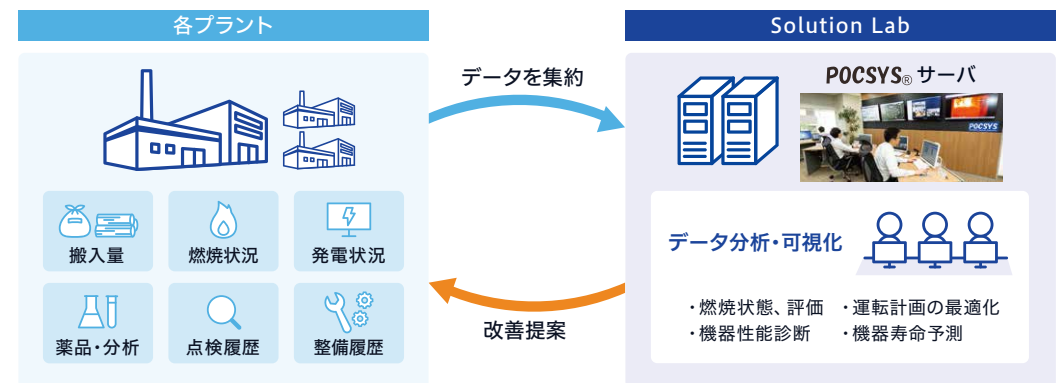
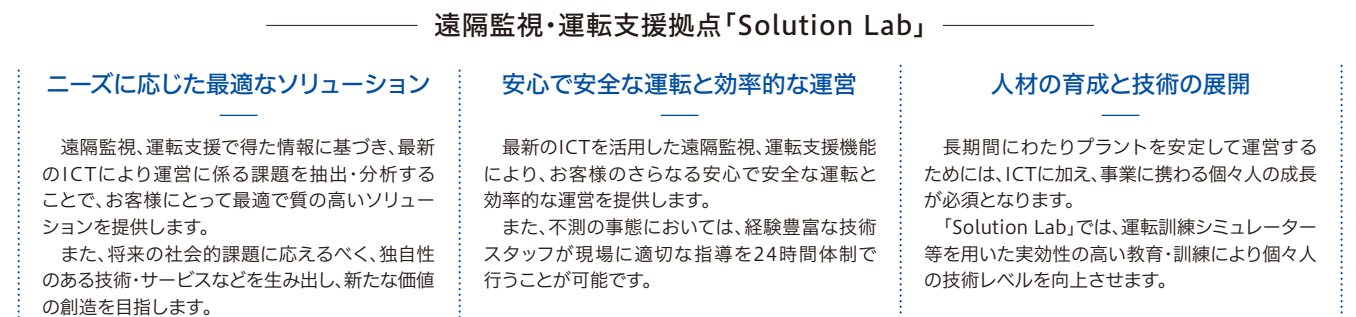
長期包括運営事業

近年、DBO事業など、10～20年にわたって運転・維持管理を一括で委託する「長期包括運営事業」が主流となり、当社グループも多くの施設の運営を行っています。

現在、10施設以上の一般廃棄物処理プラントの運転・維持管理データを運転・維持管理総合支援システム「POCSYS®」に一元化し、運転状況や機器の稼働状況をリアルタイムに集約管理しています。

また、当社は、現状のプラントの遠隔監視・運転支援機能の

さらなる拡充のため、「Solution Lab(ソリューション・ラボ)」を運営しています。「Solution Lab」では、プラントの運転状況、稼働状況を24時間体制で遠隔監視し運転支援を行っています。最新のICT(IoT、ビッグデータ、AI)を活用した質の高いサービスを推進し、お客様にとって最適なソリューションと、さらなる安心・安全・安定なプラント運営の実現に向けたサポートを提供します。

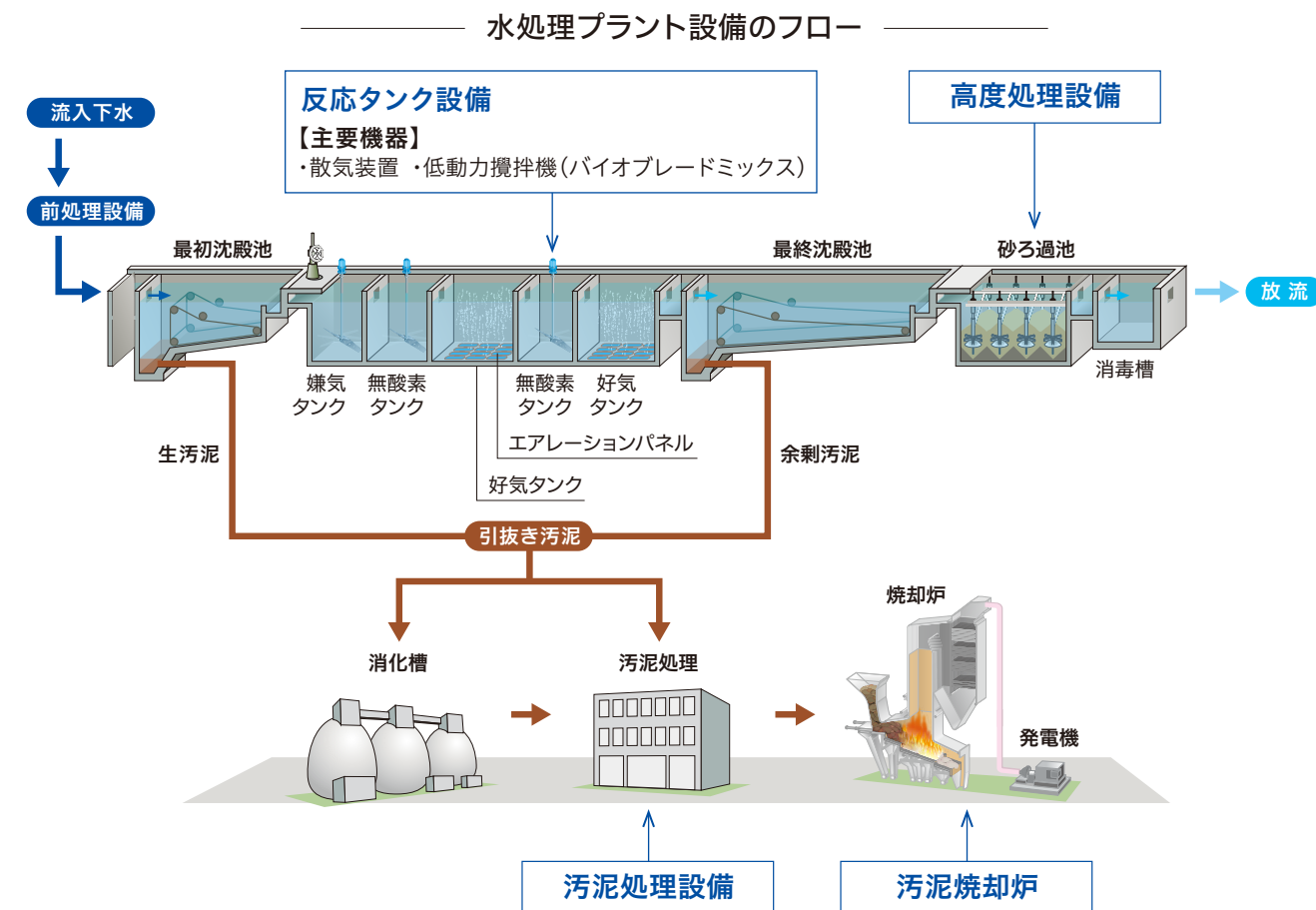


1.環境プラント事業

■ 水処理プラント事業

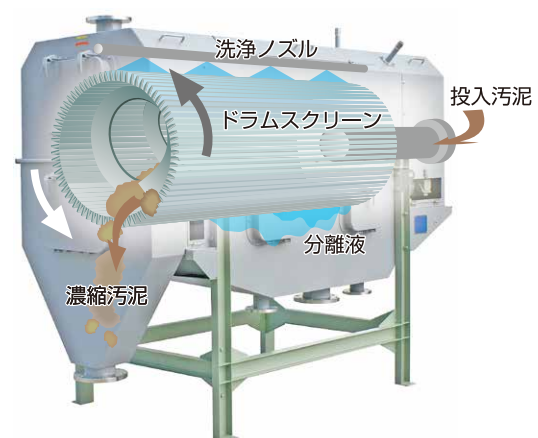
当社は水環境の保全に向け、特に排水の高度処理技術に関して、数多くの装置を納入してきました。
また近年では水を浄化するだけでなく、処理設備の省電力化や、下水污泥からエネルギーを創出することなどが求められています。当社ではその要請に応えるべく階段炉下水污泥焼却発電システムを中心に開発を進め、焼却廃熱による発電技術を実用化しています。
今後も、時代のニーズに応じた製品の提供を通じて、水環境の保全に貢献していきます。

水処理プラント



● 污泥処理設備 【主要機器】・回転ドラム型濃縮機

回転ドラム型濃縮機は金属製ウエッジワイヤーによるドラム型スクリーンによって構成され、ドラムの回転により凝集污泥を固液分離し濃縮します。固液分離された污泥はドラム内部のスパイラル状の送り羽根により、ドラムの回転にともない濃縮されながら出口側に搬送されます。ドラムスクリーンを低速回転させるだけのシンプルな構造なので、従来型に比べ低消費電力で省エネ効果が高い製品です。

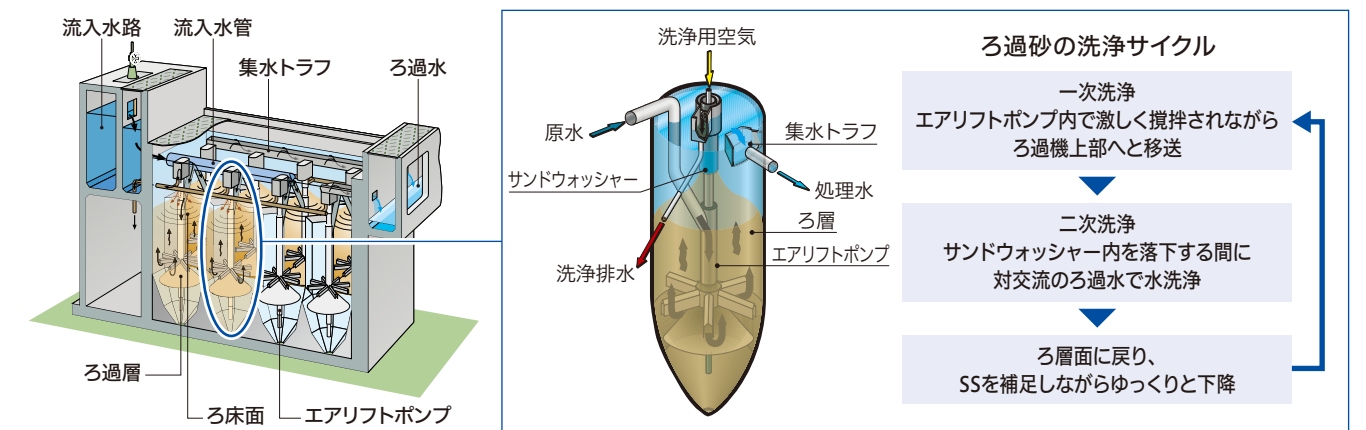


● 高度処理設備 【主要機器】・上向流移床型砂ろ過装置(ユニフロサンドフィルタ)

公共用水域の水質改善対策あるいは下水処理水を再利用するニーズの高まりから、より高度な処理水質が求められています。上向流移床型砂ろ過装置/ユニフロサンドフィルタは、水中の汚濁物質(SS)を除去するもので、下水処理場での仕上げ処理や、上水場での前処理汚濁除去など、さまざまな分野で活用されています。本装置は国内累計2,700台以上の実績のある水質浄化技術のロングセラー商品です。ろ過処理

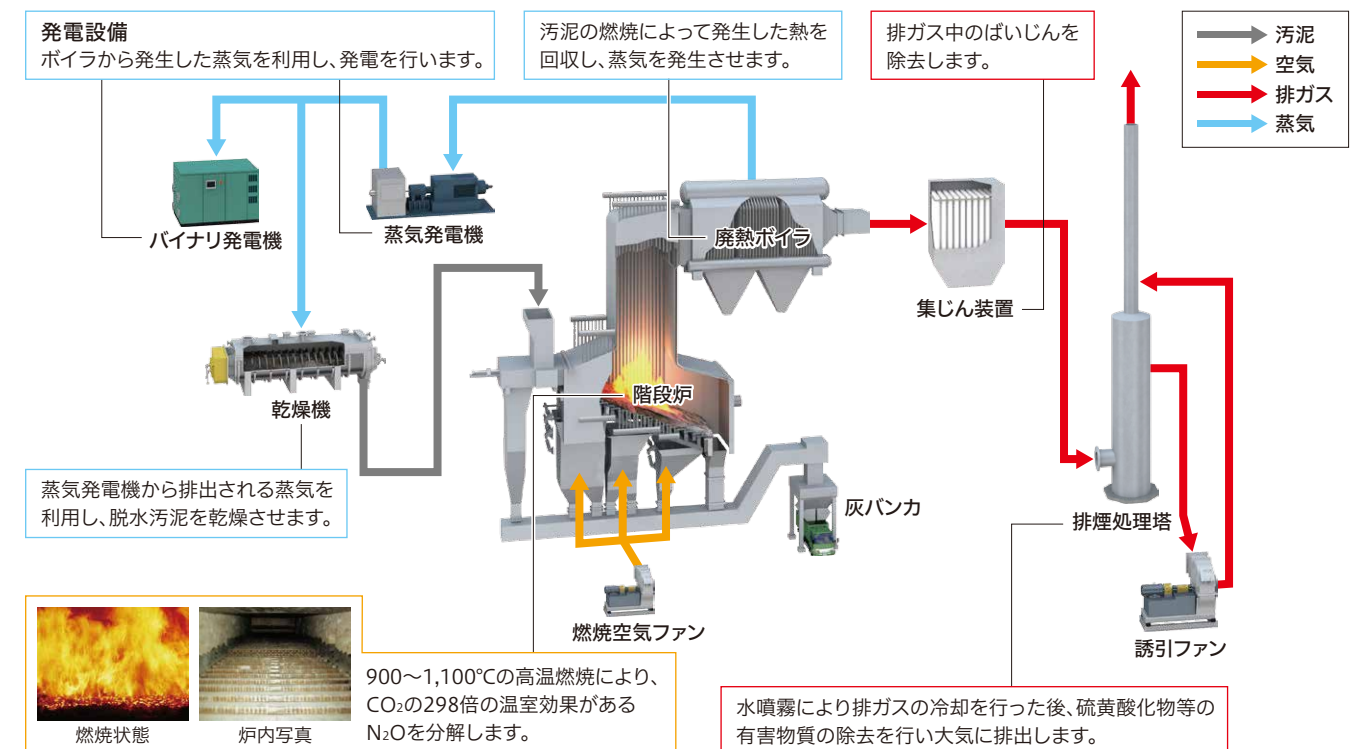
と併行して、ろ過砂を常時逆洗する機構により、安定した運転とメンテナンス性に優れた特徴を備えます。

一般的なる過速度の標準型をベースに、ろ過速度を2~3倍にした「高速型」、SS除去機能に窒素・リン除去機能を加えた「脱窒型」「脱リン型」と充実したラインナップを取り揃えています。



● 污泥焼却炉 【主要機器】・階段炉下水污泥焼却発電システム(階段炉および革新型階段炉)

下水の処理過程で発生する污泥には、大きなエネルギーが含まれており、近年バイオマスとして注目を集めています。当社のコア技術である焼却技術とボイラ技術を生かし、污泥を燃料として発電し、電力を創出することで、污泥の持つエネルギーを有効利用します。2013年度に国土交通省による「下水道革新的技術実証事業(B-DASHプロジェクト)」に採択されたことを皮切りに、これまでに東京都や札幌市より本システムを受注しています。



1.環境プラント事業

プロジェクトストーリー

先進のバイオマス利用技術により地域の循環型社会を構築する

宮津市、伊根町、与謝野町によるクリーンセンター建設プロジェクト



●施設概要

事業主体	宮津与謝環境組合	事業方式	DBO方式 (Design:設計, Build:施工, Operate:運営)
施設名称	宮津与謝クリーンセンター	事業期間	工事期間/2016年4月～2020年6月 運営期間/2020年7月～2040年2月

宮津与謝クリーンセンターは京都府北部の宮津市、伊根町、与謝野町の1市2町の広域ごみ処理施設です。「エネルギー回収型廃棄物処理施設(ごみ焼却施設+メタンガス化施設)」と「マテリアルリサイクル推進施設」で構成され、先進のバイオマス技術を取り入れた、循環型社会の形成に貢献する施設です。

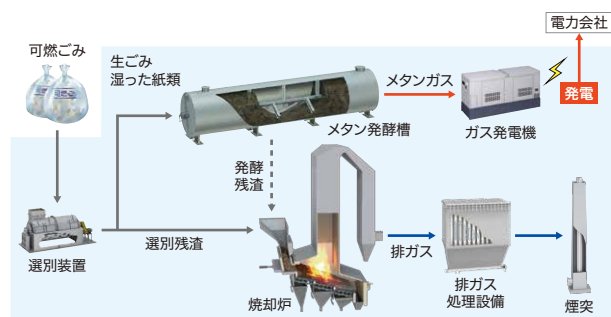
エネルギー回収型廃棄物処理施設

(ごみ焼却施設) 燃やすごみを処理する際に出る高温の熱を利用し、温水をつくります。

(メタンガス化施設) 生ごみなどから生まれるメタンガスを回収し発電。その時に出る熱も再利用できます。

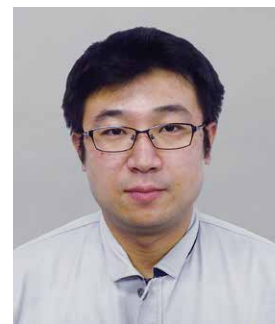
マテリアルリサイクル推進施設

不燃ごみやプラスチック製容器包装・かん類などを選別し、再資源化します。また、選別によりごみの埋立処分量を削減し、最終処分場の延命化に寄与します。



メタンガス化施設

技術担当者メッセージ



設計センター
環境技術3部2課

小北 浩司

本施設は、エネルギー回収型廃棄物処理施設(ごみ焼却施設+メタンガス化施設)とマテリアルリサイクル推進施設で構成されます。メタンガス化施設では、可燃ごみ中の生ごみや紙類等をメタン発酵させ、そこで発生したメタンガスを用いてガス発電機を運転し、電気エネルギーとして回収します。また、発電した電気のうち、一部の場内負荷を賄った後の余剰分は外部に売電することができます。

メタンガス化施設の設計においては、当社のこれまでの経験で培ったノウハウを的確に反映すること、および先行施設の最新情報を入手して検討を加え、本施設の設計に取り入れることを心掛けました。

本施設が、衛生的なごみ処理という基本的な役割に加え、マテリアルリサイクルの推進やバイオマスエネルギーの有効利用に貢献していくことを願っています。

建設について

宮津市・伊根町・与謝野町が「安全で衛生的な生活環境の実現」を目指した本プロジェクトは、ごみ処理施設の基本的な役割を担うだけのものではありませんでした。当社グループは、このプロジェクトを「先進のバイオマス利用技術で未来を拓く事業」と位置づけ、「循環型社会づくりに貢献するモデルケース」を目指し推進。「地域に安心と活気を届ける」「環境を護り、自然と共生する」「資源循環の輪を、将来にわたり支え続ける」この3つをプロジェクトコンセプトに設定し、本プロジェクトに取り組みました。

施設の計画にあたっては、「自然」、「歴史」、「人」の3つのデザインコンセプトを設定しました。豊かな自然環境に溶け込むデザインを採用したほか、地域の伝統工芸品の特徴的な形状を取り入れたデザイン、木のぬくもり等で訪者をやさしくもてなすデザインなどを取り入れています。

工事期間中には、地中障害物の発見や豪雨災害によるごみピットの冠水など、予期せぬ出来事が重なり困難な工事となりましたが、それらの障害を乗り越え、先進設備を備えた全国に誇ることができる施設を完成させることができました。

●建設工事の様子



2018年7月(豪雨災害時の様子)



2018年9月



2019年4月



2019年10月

建設担当者メッセージ



建設センター
建設部 2課

木村 尊博

本施設は、日本三景のひとつである天橋立から車で約10分の場所に位置し、高速道路の与謝天橋立ICに隣接する場所にあるため、景観的にも非常に目標となる施設です。

2017年1月に工事を着工し、当初から冬季間の積雪時における工期の遅延を一番に懸念していましたが、比較的暖冬に恵まれました。しかしながら、想定外の転石等の地中障害物による影響に加え、集中豪雨による山間部からの泥水流入等により、工期に大きく影響するさまざまな問題が発生したため、お客様との協議により工期を約11ヶ月間延長する事態となりました。

本工事は地元ゼネコンとの分担施工ですが、プラントと土木建築それぞれの所掌の問題等について情報共有したうえで工期を再編し、協調しながらお客様とともに苦境を乗り越えることができました。

お客様および地元住民の皆さまのご理解とご協力を賜り完成した本施設が、今後継続される運営事業においても、地域に貢献できる施設として持続・発展し続けることを願っています。

2. エネルギープラント事業

当社は、100年にわたりボイラ業界のパイオニアとして動力用、船舶用、空調用など、多種多様なボイラやプラントを数多く納入し、豊富な経験やノウハウを蓄積しています。今後も事業活動を通じ、お客様の課題解決と同時に、社会課題の解決にも取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

事業活動を通じた社会貢献



当社のエネルギープラント事業が提供できる価値

1. プラントエンジニアリング

豊富な納入実績に基づき、さまざまな燃料や廃棄物を長期安定的に燃焼させることのできるプラントを提供しています。

バイオマス発電プラント

未利用材、製材端材、建築廃材、PKS（パームやしごら）、ペレット、畜ふん、バガス、製紙汚泥等、さまざまなバイオマスを燃料として活用でき、長期間、安定的に稼働する発電プラントをご提供します。

産業廃棄物焼却処理発電施設

処理困難物も適切に燃焼させたうえで、発電を含む高効率な熱回収が可能な施設をご提供します。

2. アフターサービス

高度な技術と経験に基づき、プラントの長期安定稼働をより確実なものとするサービスを提供しています。

メンテナンス

プラントの高い性能の維持と計画外停止の防止のため、定期的な点検整備の計画や機能改善・予防保全等の提案・施工を行います。

O&M※

お客様の事業収益を最大化するため、20年の長期間にわたる運転維持管理を受託し、業務負荷やライフサイクルコストを低減します。

※O&M：運転・維持管理 (Operation & Maintenance)

(関連するSDGs)



製品・サービスの紹介

バイオマス発電プラント

木質チップ、バークなどの木質燃料やPKS、バガスなどさまざまなバイオマスから、熱や電力を生み出します。

4つのメリット

メリット ① 多種多様な燃料の燃焼

これまで利用が困難だったさまざまなものを燃料として有効利用することが可能です。



メリット ② オーダーメイド設計

4つの燃焼機種からお客様の計画に最適な機種を選定し、プラント設計を行います。



メリット ③ 長期安定稼働

性状が不安定なバイオマスであっても、豊富な経験やノウハウに基づいた設計を行い、故障や突発停止が少なく、適切にメンテナンスを行うことで安定的に何十年も運転が可能なプラントをご提供します。

メリット ④ 高効率、省エネ性能

最適な燃焼方式やボイラを選定し補機動力や未燃分の低減を図ることで、送電端効率やボイラ効率を高めたプラントをご提供します。

2.エネルギープラント事業



プロジェクトストーリー

バイオマス発電プラントを通じて再生可能エネルギー業界の持続性を支える
愛知県豊橋市におけるバイオマス発電プラント建設プロジェクト

顧 客 名	サーラeパワー株式会社
工 事 名 称	サーラeパワー バイオマス発電所建設工事
発 電 規 模	22,100kW 年間1億5000万kwh (一般家庭の約4万世帯分)
主 な 燃 料	PKS、木質燃料、木質ペレット
完 成	2019年6月

お客様は、エネルギー事業を中心に幅広い事業を展開しているサーラグループの中心企業であるサーラエナジーの100%子会社であり、木質バイオマス発電事業を行う新会社として設立されました。今回納入したバイオマス発電プラントは、東南アジアからの輸入PKSを主力燃料とし、愛知県奥三河や静岡県遠州地区などから排出されるチップ化した未利用材等を混焼する際に出る熱を利用して発電します。

天候に左右されず温室効果ガスの抑制にもつながるクリーンで安定した電源であることに加えて、地域社会と連携し、地域の森林資源の適正な保護に貢献しています。

技術担当者メッセージ



プロジェクトセンター エネルギー技術1部2課
樋口 了慈

現在は技術統括部署に所属し、ボイラプラントの計画・設計業務に携わっています。

サーラeパワー様におかれましては、今回初めて当社のボイラプラントを採用いただいたお客様であったことから、設計当初より綿密な打合せを重ね、プロジェクトを推進してきました。私以外にも多くのメンバーが本プロジェクトに携わるなかで一致団結して取り組んだ結果、お客様に満足していただけるプラントを建設することができたと考えています。

今後、これまでに当社が培った経験と技術をもとにさらなるお客様のニーズに応えるべく、プラントの計画・設計に取り組んでいきます。



建設について

豊橋市新西浜町、三河港臨海部の敷地約3万m²に建設された本プラントは、PKSや国産間伐材を燃料に使い、一般家庭4万世帯分に相当する年1億5000万kWhの発電能力を有する国内有数の木質バイオマス発電所です。当社では、本プロジェクトを国内における再生可能エネルギー普及の重要なプロジェクトと位置づけ、早期の運転開始と徹底した安全管理を重視して建設に取り組みました。

建設工事は、2018年4月に着工し、2019年4月から試運転

を行い、着工後15か月後の2019年6月に完成いたしました。この規模のプラントでは大変厳しい工事工程ではありましたが、工事期間中の無災害(無災害記録:約16万時間)を実現したうえで、お客様へ引き渡すことができました。これもひとえにお客様のご協力や工事に携わった延べ20,900名の社員・協力企業の皆さまの尽力のおかげです。

この建設工事に携わった経験を生かして、変化していく時代に必要とされるプラントをこれからも建設していきます。

●建設工事の様子



ステークホルダーメッセージ

サーラeパワー株式会社
 代表取締役社長

藤田 尚弘 様

エネルギー業界は、電力・ガスの小売全面自由化により、エネルギー産業の融合化・ボーダーレス化の時代を迎えました。これに対応して、サーラグループでは都市ガス・LPガスの供給に加えて電力の小売事業および発電事業にも取り組み、発電から電力販売まで一貫して手掛ける体制を整えることで、地域社会ならびにお客様の信頼とご期待にお応えできると考えております。

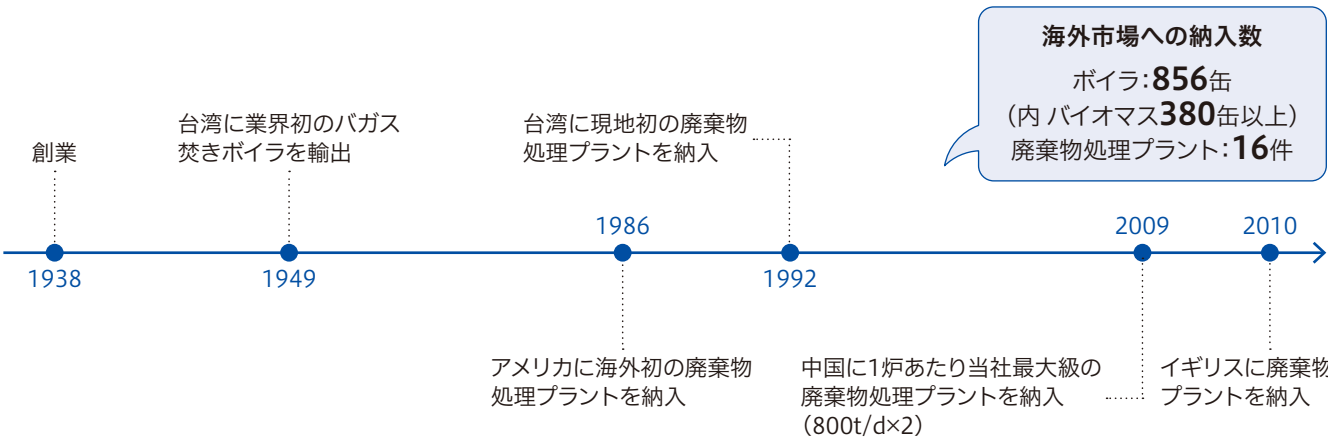
タクマ製バイオマス発電プラントの運転を通じて、温室効果ガスの抑制にもつながるクリーンで安定した再生可能エネルギーを地域社会へ供給し、近隣地域から排出される未利用材の有効活用による地域社会との連携を深め、社会を支えるインフラとして革新に取り組んでいきます。

3.海外事業

1949年、台湾向けに業界初となるバガス焚ボイラを輸出したのが、当社の海外事業の始まりです。以来、70年余りの間に850缶以上のボイラを海外のお客様に納めてきました。創業当初より培ってきた燃焼技術は、化石燃料のみならず、バガス、パーム、木質等の特殊燃料にも対応しており、各国のさまざまな製造現場における動力源として現地の産業を支えるとともに、再生可能資源の有効利用を促進してきました。

また、廃棄物処理プラントについてはアメリカ、台湾、中国、韓国、イギリスに16の実績を有しています。廃棄物のような多様なものを燃やす場合にも当社の技術が生きています。国や地域により全く異なる性質を持つごみに対し適切なソリューションを提供することで長期安定稼働を実現しています。

近年では、パリ協定などの国際的な枠組みを踏まえて地球温暖化対策とエネルギー政策の両面からバイオマスボイラが再注目され、本格的な電源としての活用が大きな潮流となっています。また、とりわけ発展途上国においては、廃棄物の適正処理が喫緊の課題となっています。環境意識、法整備、予算などさまざまな要素が錯綜し、決して平坦な道のりではありませんが、当社の提供するプラントがクリーンエネルギーの提供や、住み続けられるまちづくりへの貢献をはじめ、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にさまざまな側面から寄与するものであることは間違いありません。今後とも当社の技術の結晶であるこれらの製品によりお客様のビジネスを支えるとともに、国際社会への貢献を果たしていきます。



納入事例



鹿草ごみ焼却プラント(台湾)

嘉義縣鹿草垃圾焚化廠

施設	処理能力
廃棄物焼却発電プラント	900t/日(450t/24h×2炉)
竣工年月	発電能力
2001年12月	定格出力 28,000kW
処理方式	
ストーカ式焼却炉	



TSM Group(タイ)

TSM Power Co., Ltd.
Thai Udonthani Power Co., Ltd.

施設	蒸気条件(常用)
バイオマスボイラプラント(4缶)	150t/h×4.2MPaG×450°C×2缶
竣工年月	170t/h×4.2MPaG×450°C×2缶
2012年11月2缶・2019年1月2缶	燃料
	バガス
燃焼方式	
トラベリングストーカ	



Kenana Sugar Co., Ltd.(スーダン)



スーダンに納入したバガス焚ボイラプラントです。1976年に設立されたKenana Sugar社はサトウキビの栽培から製糖まで一貫管理、運営する大企業であり、当案件はナイル河の水利と豊かな日照に恵まれた立地を利用し、地域の緑化、穀倉帯化を図る壮大な国家事業でした。

通信手段も限られた時代、日本から遠く離れたアフリカの地において、規模の大きさ、要求水準の高さに加え、全く異なる文化や作業環境に悪戦苦闘しながらも1981年に6缶

施設	バイオマスボイラプラント(8缶)
竣工年月	1981年6缶・1999年3月1缶・2004年1月1缶
燃焼方式	トラベリングストーカ
蒸気条件(常用)	113.4t/h×3.2MPaG×360°C×6缶 136t/h×3.1MPaG×370°C×2缶
燃料	バガス

を、また、1999年と2004年にもそれぞれ1缶を納入し、地域開発に貢献することができました。1981年の竣工の際には、大統領始め各国来賓を迎えて盛大な開所式が挙行されました。



竣工を記念してKenana Sugar社の施設が描かれた当時の10スーダン・ポンド紙幣

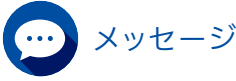
Lakeside Energy from Waste Ltd.(イギリス)



イギリス、ロンドン郊外のスラウにおいて2010年に納入した廃棄物焼却発電プラントです。同社のウェブサイトには、1年間に450,000トンのごみを処理し、306GWhの発電を行っており、これは同地域のすべての世帯(86,267戸)に対し十分な電力を供給するだけの規模を誇るプラントであると紹介されています。

施設	廃棄物焼却発電プラント
竣工年月	2010年1月
処理方式	ストーカ式焼却炉
処理能力	1,370t/日(685t/24h×2炉)
発電能力	定格出力 36,650kW

海外においてはこのように民間事業者様が都市ごみを含めた廃棄物処理を担われているケースも多くあります。ビジネスとして処理費や売電などによる収益性の向上を追求するにあたり、高効率で長期間安定的に稼働できる堅牢なプラントが必須となりますが、当施設はこれらの点でも高い評価を頂いています。



国際本部 副本部長
高松 健夫

Kenana Sugar社に納入した8缶のボイラは、長いものでは40年近くが経過した今もなお稼働を続けています。また、2010年に竣工したLakeside EfW社向け施設は、プラント引き渡しから10年が経ちましたが、現在でも欧州ナンバーワンEfWプラントとして順調に稼働し、お客様の厚い信頼を得ています。当社の製品は長期にわたり安定的に稼働することで、お客様のビジネスや社会への貢献が果たせるものであり、その性能こそが、当社が最も誇りとするところです。プラントの納入までには海外事業特有の困難に直面することも多々ありますが、先人より受け継いだチャレンジ精神と、これまでに培ってきた経験を礎として今後も取り組みを続け、将来につなげていきたいと考えています。

主な納入物件

当社が2019年度に納入した主な物件をご紹介します。

一般廃棄物処理プラント事業

基幹改良



山口市清掃工場

工事名称
山口市清掃工場
基幹的設備改良工事

設備能力
焼却施設：220t/日(110t/24h×2炉)
発電出力：3,600kW

納入地
山口県

水処理プラント事業



東京都 葛西水再生センター

工事名称
東京都葛西水再生センター汚泥濃縮槽4号
機械設備改良工事

設備能力・仕様
工事概要：汚泥掻き機 更新工事
型式：中央駆動支柱型
設備能力：φ28,000mm×1台

納入地
東京都

エネルギープラント事業



CEPO半田 バイオマス発電株式会社

工事名称
CEPO半田バイオマス発電所建設工事

設備能力・仕様
燃料：PKS、木質燃料
蒸気条件(常用)：190t/h×6.2MPaG×480℃
発電出力：50,000kW

納入地
愛知県



サーラeパワー株式会社

工事名称
サーラeパワー
バイオマス発電所建設工事

設備能力・仕様
燃料：PKS、木質燃料、木質ペレット
蒸気条件(常用)：85t/h×6.0MPaG×480℃
発電出力：22,100kW

納入地
愛知県



青木環境事業株式会社

工事名称
廃棄物焼却処理発電施設建設工事

設備能力・仕様
処理物：産業廃棄物
処理量：93.6t/日
発電出力：1,050kW

納入地
新潟県



宇治市 東宇治浄化センター

工事名称
宇治市東宇治浄化センター
水処理設備工事その17

設備能力・仕様
工事概要：初沈、反応タンク、終沈、消毒、
用水設備の改築工事
処理水量：3,650m³/日
処理方式：凝集剤併用型
生物学的窒素除去法
仕様：散気装置、汚泥掻き機他

納入地
京都府



大阪市 北港処分地

工事名称
北港処分地
廃水処理施設復旧工事(その2)

設備能力・仕様
工事概要：2018年9月の台風21号で
被災した廃水処理施設の
復旧工事
処理水量：3,000m³/時
処理方式：凝集沈殿方式
仕様：濁水処理装置

納入地
大阪府



高知県 浦戸湾東部流域下水道高須浄化センター

工事名称
浦戸湾東部流域下水道高須浄化センター
汚泥処理設備工事その15

設備能力・仕様
工事概要：脱水機の増設工事
型式：圧入式スクリーブレス脱水機他
設備能力：225kg-DS/時

納入地
高知県



株式会社サラ

工事名称
排ガス浄化設備設置工事

設備能力・仕様
設備概要：CO₂供給設備
排ガス源：バイオマス発電所の燃焼排ガス
CO₂供給量：2,750kg-CO₂/h

納入地
岡山県

林ベニヤ産業株式会社

工事名称
バイオマス発電所建設工事

設備能力・仕様
燃料：木質燃料
蒸気条件(常用)：31t/h×5.98MPaG×415℃
発電出力：6,800kW

納入地
京都府